Osaka University Knowledge Archive

Title	国立民族学博物館所蔵中西コレクションの西夏文 ―『聖勝慧彼岸到功徳宝集頌』断片について―
Author(s)	荒川, 慎太郎
Citation	内陸アジア言語の研究. 2003, 18, p. 1-16
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/17730
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

国立民族学博物館所蔵
中西コレクションの西夏文
——『聖勝慧彼岸到功徳宝集頌』断片について——

荒川慎太郎

1．はじめに

国立民族学博物館には故中西亮氏コレクションの西夏文が4点所蔵されている[(1)]．うち3点は碑文断片の拓本であり，1点は刊本の断片である．前者の内容はこれまでに知られる西夏陵墓誌銘断片であり，後者は仏典，『聖勝慧彼岸到功徳宝集頌』の一部である．本小稿では，チベット語から西夏語に訳されたと考えられる『聖勝慧彼岸到功徳宝集頌』のテキストを提示し，あわせてチベット語から訳された西夏語仏典に特徴的な点を述べたい．また，付録として拓本3点の西夏文と訳注を末尾に付ける．

2．『聖勝慧彼岸到功徳宝集頌』断片

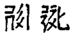
当該の断片[(2)]は正確には2点とすべきであるが，あたかも連続する断片のように，現在は一枚の紙に貼り合わされている．来歴を含め，いかなる経緯でこのような裏打ちが行われたのかも定かではない．結論を先にいえば，この断片は同一の経典ではあるが連続する部分ではなく，内容的にも前後は逆である．またこのような保存状態であるため裏面の姿は不明である．本来この二つの断片は折本の一部であったらしく，それぞれが一頁分に相当する．本稿では便宜上，右側に貼られた断片を「右断片」，左側に貼られた断片を「左断片」と呼ぶ．

---

(1)　本資料の閲覧と調査に快くご協力していただいた，国立民族学博物館情報サービス課松本裕子氏に厚くお礼申し上げる．

(2)　国立民族学博物館による整理番号は No. 128, c 942262111.

次に両断片に共通する書誌情報を述べておく．寸法は 15.2 × 9.0 cm（ただし刊本の上下が裁断されており，もとは縦 17 cm ほどと考えられる）．刊本・折本．天地線（各２本）あり．毎頁６行，11 字詰．一部の字に欠損がある．

左断片２行目に  「集頌」と略題があるため，本資料が西夏文『聖勝慧彼岸到功徳宝集頌』[3]の一部と見当がつく．また上の書誌情報から，当該の資料が既知の西夏文『聖勝慧彼岸到功徳宝集頌』刊本[4]の体裁に酷似することがわかる．ロシア科学アカデミー東方学研究所サンクトペテルブルグ支所所蔵本は，整理された書誌情報を挙げれば，

Тангｒ 66　『聖勝慧彼岸到功徳宝集頌』　«№ 372 ～ 379»[5]

刊本．折本．天地線あり，各２行．毎頁６行，11 字詰．

であり，甘粛省博物館所蔵断片[6]は陳炳応（1993）に掲載される図版によれば６行，11 字詰の刊本・折本であり，字形なども本資料と酷似していることがわかる[7]．

現存するチベット語仏典に内容が最も近いものを求めれば，

---

(3)　後述する甘粛省博物館所蔵断片の経題による西夏文は，

である．

(4)　写本も確認されている．Тангｒ 66, инв. № 4087, «№ 371» は７行，11字詰の写本・折本．Кычанов（1999：481-482）参照．

(5)　Кычанов（1999：482-484）参照．

(6)　天梯山石窟出土文献であり『聖勝慧彼岸到功徳宝集頌』下巻冒頭とされる．図版は『考古与文物』1983 年第３期，「図版 12-1」，『中国民族古文字図録』（中国民族古文字研究会，1990）「西夏文 図版 110」など．「西夏文 図版 110」については同図録 p. 369 の図版説明も有用である．なおこの断片は Ḥphags-pa śes-rab-kyi pha-rol-tu phyin-pa sdud-pa tshigs-su-bcad-pa『聖般若波羅蜜多輯攝偈』（北京版西蔵大蔵経 No. 735），第二十三品「帝釈品」の冒頭に相当することが松澤（1986）に明らかにされている．該当個所の日本語訳文とチベット文との対応箇所は松澤（1986：14-16）参照．

(7)　日本には他に天理図書館蔵張大千氏旧蔵文書に断片が存在することが知られる．松澤（1990：70-71, 1994：159）参照．また内蒙古文物考古研究所にも所蔵されるが詳細は不明である． 内蒙古文物考古研究所阿拉善盟文物工作站（1987：22），史金波（1988：393, 1993：356）参照．

Ḥphags-pa śes-rab-kyi pha-rol-tu phyin-pa sdud-pa tshigs-su-bcad-pa

『聖般若波羅蜜多輯攝偈』(北京版西蔵大蔵経 No. 735)

が挙げられ，西夏語訳とほぼ同じ内容の部分が確認できる．右断片は，第二十二品「善知識品」の一節に相当する．左断片は，第九品「讃嘆品」末から第十品「総持功徳品」冒頭に相当する．ただし北京版西蔵大蔵経『聖般若波羅蜜多輯攝偈』第九品「讃嘆品」末は「讃嘆品」という章題を持たない．西夏語訳の章題は，

Ḥphags-pa śes-rab-kyi pha-rol-tu phyin-pa brgyad-stoṅ-pa

『聖八千般若波羅蜜多』(北京版西蔵大蔵経 No. 734)

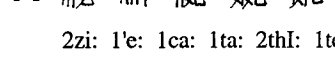
の第九品「讃嘆品」末章題に近い．

3．テキストと訳注

以下，右断片，左断片の順に，西夏文，筆者による各文字の推定音[8]，日本語訳と注を挙げる．……は欠損を推定した箇所，＿＿＿はチベット語訳には明瞭に対応しない箇所，(　)は筆者が訳文の上で補った箇所，……は完全な欠損部を示す．また，筆者は2002年7月，ロシア科学アカデミー東方学研究所サンクトペテルブルグ支所にて，欠損のない左断片相当箇所を調査・閲覧する機会を得た[9]．[　]はこれによって補った箇所である．

No. 128, c 942262111 [Plate I]

右断片

r-1 

2zi: 1'e: 1ca: 1ta: 2thI: 1tenq 2rer 2ngwu 2dze:[10] 2tya: 1lI:

全ての道とはこの彼岸である．他(のもの)ではないのだ．

---

(8) 推定音表記は荒川(1997, 1999)による．また欠損字の推定音は ??? で表す．

(9) 本調査は文部科学省科学研究費補助金，基盤研究(A)(1)，課題番号 14201053：「中央アジア古文献の言語学的・文献学的研究——ロシア所蔵未発表文献の解明——」(代表：庄垣内正弘京都大学教授)の援助による．

(10) 『文海雑類』上声部・歯頭音類収録音節．荒川(1997：103)参照．

r-2 [illegible]

2thI: 1tenq 2rer 1ta: 2phyu 1po 1tyen 2'a 2'o 2ngwer 1'e:

この彼岸とは（最）上の菩提に入る諸々を

r-3 [illegible]

1jyu[11] 1swe: 2zyur 1ldi:q' 1sweu 1ldi:q' 2phyu 2se:' 2ngwu 2'I: 1tshe:'

明らかにし，燭，及び明るい（もの），及び（最）上の師であるというのを説く．

r-4 [illegible]

2the: 2so: 2bu' ?zi? 1tenq 2rer 2nI: 1'e: 1'e: 2tsyer2 1nga

何を以て，勝れた智慧，彼岸に到る（こと）の自性は空（であるというのか）

r-5 [illegible] □

2thI: 1tsyer2 2ngo:r 2ngo:r 1'e: 2tsyer2 1tha: 2ri:r 2leu 2swu ???

この法一切の自性は，それと同じ[12]であるのを……

r-6 [illegible] □ □ □

1ryur 1tsyer2 2ngwer 1nga 1'e: 1me: 1byu 1ta: ??? ??? ???

諸々の法などは空性がない故に，というのは……

---

(11) 西田（1977：180, 文字番号 202-102）では上声 2 韻とするが，「文海雑類」平声部・正歯音類収録音節（荒川 1997：96）であるため声調を改めた．

(12) [illegible] の二語の形で西夏語韻書「同音」甲種本（33 葉目右頁 5 行目）にも記載される．李範文（1986：721）参照．

左断片

1-1 [illegible]

2thI: 1ta: 2bu' ?zi? 1tenq 2rer 2nI: 1'e: 2phyu ?ji? 2ngwu

これは，勝れた智慧，彼岸に到る（こと）の（最）上の行いである．

1-2 [illegible]

1shyo' 1la:' 1kha 1benq 2'ywon 1te: 1gyI' 2tseu 1jwa:

「集頌」の中の「誉め讃える品」第九，終わる．

1-3 [illegible]

2bu' 1'wyi 2do 1ta: 1ngIr 2ne: 2'i:r 1mi:' 2dzyu 1kyuq 2'yu

勝れた主の所に，とは，天王，百の施し（＝帝釈天）の命じるものを求めさがす

1-4 [illegible]

[1po] 1tyen 1ki:r 2se: 2bu' ?zi? 1jenq 2myeq'2 2the: 2so: 2'I:r

[菩] 提勇識，勝れた智慧を行じる者はどのようにして勤め，

1-5 [illegible]

[1ngur 1ldi:q' 2kyeq] 2'a 2lhI: 2gyer 1zenq 1tsI: 2'I:r 1mi: 1wi:

[蘊及び界] に（微）塵が幾らかあり，また勤めをなさない

1-6 [illegible]

[1ngur 2'a 1mi: 2'I:r 1tha:] 1ta: 1po 1tyen 1ki:r 2se: 2'I:r

[蘊に勤めない，それ] とは菩提勇識を勤める

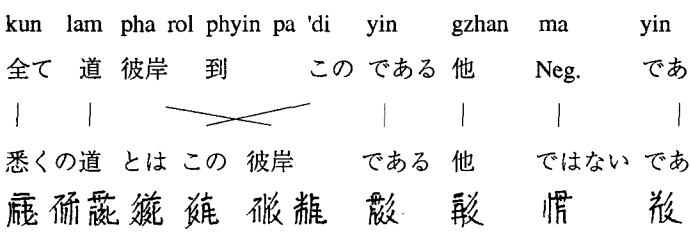
4．チベット語訳『聖般若波羅蜜多輯攝偈』との対応

本資料は断片ながら，チベット語を極めて正確に，また逐語的に西夏語に訳出している点において興味深い資料である．その対応を見るため，チベット文『聖般若波羅蜜多輯攝偈』をローマナイズしたものとその語義，[13] 西夏文字と語義[14]を以下にあげる．

右断片

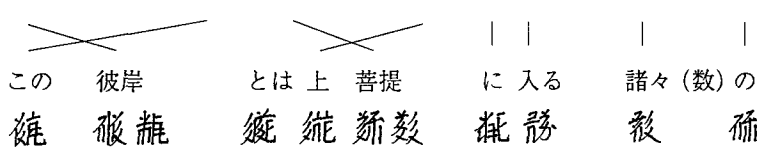
Tib. 1-1

kun	lam	pha rol	phyin	pa 'di	yin	gzhan	ma	yin
全て	道	彼岸	到	この	である	他	Neg.	である
|	|	╳			|	|	|	|
悉くの道	とは	この	彼岸		である	他	ではない	である



Tib. 1-2

pha rol	phyin	'di	byang chub	mchog	la	zhugs	rnams	kyi
彼岸	到	この	菩提	最上の	に	入った	諸々	の
╳			╳		|	|	|	|
この	彼岸		とは 上	菩提	に	入る	諸々（数）の	



(13)　以降のチベット文字転写は Wylie 方式で表記した．チベット文の改行は主に原文の chig shad（句の区切り）による．助詞はできるだけ日本語で近い意味を持つものを充てたが，名詞または動詞に先行する否定辞については Neg. で表した．左断片 2 行目 (1-2) は『聖八千般若波羅蜜多』（北京版西蔵大蔵経 No. 734）第九品「讃嘆品」末章題と対応させた．Tib. 2-2 である．

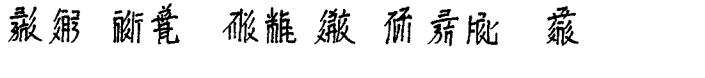
(14)　略号 Neg. は否定接頭辞を示す．他の否定辞は「ない」，「ではない」などと訳す．

Tib. 1-3

gsal dang sgron dang snang dang ston mchog yin zhes bshad

明現 と 燈火 と 明かり と 師 最上の である という 説いた

明現 燈火 と 明かり と 上 師 である という 説く

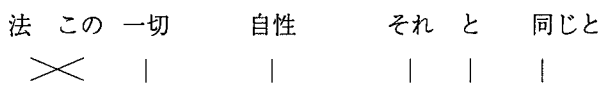


Tib. 1-4

ji ltar shes rab pha rol phyin pa mtsan nyid stong

如何に 勝慧 彼岸 到 自性 空

如何に 勝慧 彼岸 到る の 自性 空



Tib. 1-5

chos 'di thams cad mtshan nyid de dang 'drar shes shing

法 この 一切 自性 それ と 同じと知って

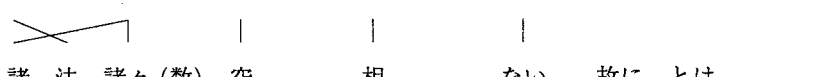
この 法 一切 自性 それ と 同じ

Tib. 1-6

chos rnams stong zhing mtshan ma med par rab shes na

法 諸々 空 で 相 ない 最上 知れば

諸 法 諸々 (数) 空 相 ない 故に とは



左断片

Tib. 2-1

'di ni shes rab pha rol phyin mchog sbyong pa yin

これ とは 智慧 彼岸 到 最上 行じる である

| | | | | | | |

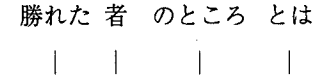
これ とは 勝慧 彼岸 到る の 上 行 である

Tib. 2-2

'phags pa shes rab kyi pha rol du phyin pa brgyad stong pa las

聖なる 智慧 の 彼岸 に 到る 八 千 (『八千頌』) より

集 頌 間の

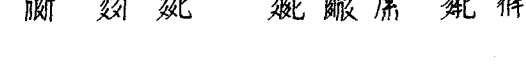


bstong pa'i le'u zhes bya ste dgu ba 'o

讃える 品 という で 第九 (終助詞)

| | ／＼ |

讃える 品 九 第 終わる



Tib. 2-3

rgyal ba la ni lha rgyal brgya byin gyis zhus ba

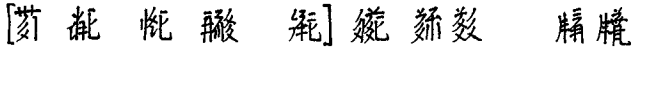
勝れた 者 のところ とは 天 王 百施 (＝帝釈) が 求める

| | | | | | | |

勝れた 主 のところ とは 天 王 百 施 命じる 求める 探す

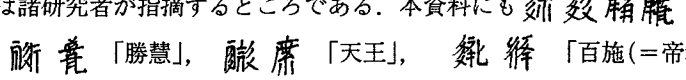
Tib. 2-4

byang chub	sems dpa'	shes rab	sbyod	pa	ji ltar	brtson
菩提	勇識	智慧	行じる	(者)	如何に	勤める
|	|	|	|	|	|	|
[菩] 提	勇識	勝慧	行じる	者	如何に	勤める



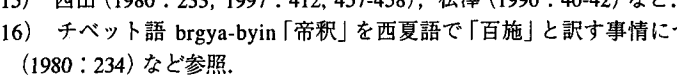
Tib. 2-5

phung po	khams	la	rdul	tsam	brtson	par	mi	byed cing
蘊	界	に	微塵	幾らかの	行		Neg.	なす して
|	|	|	|	|	|		|	|
[蘊 及び	界]	に	微塵	幾らか また	勤行		Neg.	なす



Tib. 2-6

phung po	mi	brtson	de	ni	byang chub	sems dpa'i		brtson
蘊	Neg.	行	それ	とは	菩提	勇識	(の)	行
|	|	|	|	|	|	|		|
[蘊 に	Neg.	勤行	それ]	とは	菩提	勇識		行



チベット語仏典が西夏語訳される際，極めて独特な訳出語彙が見られることは諸研究者が指摘するところである.[15] 本資料にも 「菩提勇識」，「勝慧」，「天王」，「百施(＝帝釈天)」[16]などが確認できる．また，一般に「数える，数」の意で用いられる が，チベット

(15) 西田 (1980：233, 1997：412, 457-458)，松澤 (1990：40-42) など.

(16) チベット語 brgya-byin「帝釈」を西夏語で「百施」と訳す事情については，西田 (1980：234) など参照.

語の rnams「諸々の」の訳出に必ず用いられるのが目を引く．

チベット語は近称・遠称の二種類の指示代名詞を持つ．このわずかな断片には二種類とも出現するが，上の対応を一瞥すれば，近称の 'di は西夏語の近称指示代名詞 [illegible] 2thI: に，遠称の de は西夏語の遠称の [illegible] 1tha: に，それぞれ規則的に対応することが見て取れる．

さらに本資料では，語彙だけでなく文法要素の対応も顕著に見られる．例えばチベット語の「強調助詞」ni と西夏語の「主題標識」[illegible] 1ta: のほぼ規則的な対応である．同様の助詞類の対応を以下に挙げておきたい．

チベット語	西夏語
ni	[illegible] 1ta:
la	[illegible] 2'a
dang	[illegible] / [illegible] 1ldi:q' / 2ri:r[17]
la	[illegible] 2do

従来，チベット語仏典に由来する西夏語訳仏典には著しい体裁上の特色があった．それは巻首の体裁に関するものであり，チベット語訳仏典が仏典冒頭に梵文経題とチベット語訳経題を並記するように，梵文(西夏文字で音写して)経題と西夏語訳経題が記されるというものであった[18]．本資料は冒頭部分ではないため，この点については検証できないが，他に指摘するべき特徴がある．

本資料では「章題」の記載位置が特徴的である．一般に西夏語仏典は，漢語から訳出されたものであれ，チベット語から訳されたことが確実なものであれ，漢語仏典風に各章題は各章の本文の前に記載される．ところが本資料はチベット語訳仏典同様，各章の最後に章題をもつ．左断片２行目がまさにそれに該当する．左断片１行目の内容は「第九品」の末尾であり，２行目は「第九品」章題と「終わる」という語，３行目以降は「第十品」冒頭にあたる．このような章末

(17) この二語の使い分けは，[illegible] 1ldi:q' は "and" のような名詞の並置，[illegible] 2ri:r は "with" のような「共格」の場合である．

(18) 西田 (1969：5-6, 1980：231-232, 1997：410-412, 455-456) など参照．

の体裁はチベット語訳仏典と等しい.

以上，西夏文『聖勝慧彼岸到功徳宝集頌』は短い断片であるが，チベット語から訳された西夏語仏典を議論する上で極めて興味深い諸特徴が観察できる.

付録　西夏文碑文拓本　テキスト・訳注

No. 123, c 942361613 [Plate II][19]

1　] 䌛 庳 [

…玄孫[20]を見送り…

2　] 䕶 豕 斑 鬷 [

…進み，一城を破る（崩す）…

3　] 終 矧 厖 縛 䕶 [

…六地程（道里）[21]，義軍…

4　] 䰟 䕶 䌛 嚇 敝 [

…将軍「操呉[22]」，三…

5　] 嚴 斑 彝 翹 敝 [

…険城に依り，人はまれ…

---

(19)　残碑断片自体は現在，中国・寧夏博物館に所蔵され，『西夏文物』(史金波・白濱・呉峰雲 1988) 図版 111 に「八号陵西夏文残碑」として写真が掲載される．同書 p. 298 の解説の他，西夏八号陵については「西夏八号陵発掘簡報」(寧夏回族自治区博物館 1978) も参照.

(20)　推定音は 2ka．漢語音訳として「葛」という例もある．李範文 (1997：300, 字典番号 1560) 参照.

(21)　矧 厖 の二語で「地程，道里」．李範文 (1997：6, 字典番号 0026) 参照.

(22)　䌛 (李範文 1997：1081, 字典番号 5964) と 嚇 (李範文 1997：366-367, 字典番号 1915) はともに音訳用の文字であるが，ここではその人物を特定できないため，代表的な漢字訳例をあてた．「孫武」などの可能性もある.

6] □ 𢧵 [

…空…

No. 124, c 942361710[23] [Plate III]

1] 𢧵

…産（する）[24]

2] □ 𢧵

…文

3] 𢧵 𢧵

…罰，徳

4] 𢧵 𢧵 𢧵

…戌二十[25]

5] 𢧵 𢧵 𢧵

…失う．天地

6] 𢧵 𢧵

…同中

---

(23) 残碑断片自体は現在，中国・寧夏博物館に所蔵される．本資料よりやや鮮明な拓本は『西夏陵』（寧夏文物考古研究所・許成・杜玉冰編著 1995）図版 64 の「4. M2X: 37+58+152」に掲載される．同書 p. 124 に漢語訳文が挙がる．訳文は李範文（1984：43）を参考にしたが，筆者が拓本の実見により修正した箇所がある．

(24) 字形の一部を欠くが，𢧵 を偏とし，𢧵 を中間要素として持つ字形は 𢧵 のみであるため，この字形であろう．

(25) 字形は上三分の一を欠くが，年号に関する内容であるため 𢧵 「戌」（李範文 1997：112-113，字典番号 0573）と推定する．

7] 𗍫 𗥤 𗥦

…気，白い[26]光

8] 𗤶 𗤷 𗤸

…新宮[27]の中

9] 𗅁 𗅂 𗅃

…月時と

10] 𗥤 𗥦

…青い[28]光

No. 129, c 942362218[29] [Plate IV]

1] 𗅁 𗅂 𗅃 𗅄 [

…受けた後，魏[30]の本…

2] 𗅅 𗅆 𗅇 𗅈 𗅉 [

…女[31]，また義を欠き[32]，さらに[33]…

---

(26) 西夏語の語順は「光←白い」.

(27) 西夏語の語順は「宮←新しい」.

(28) 西夏語の語順は「光←青い」.

(29) 残碑断片自体は現在，中国・寧夏博物館に所蔵され，『西夏文物』(史金波・白濱・呉峰雲 1988) 図版 109 に「寿陵西夏文残碑」として写真が掲載される．より鮮明な拓本は『西夏陵』(寧夏文物考古研究所・許成・杜玉冰編著 1995) 図版 66 の「2. M2X: 3+20+160+533+876」参照．同書 p. 125 に漢語訳文が挙がるが，「名」を「各」に，「昔」を「者」にするなどの誤植があり，注意を要する．訳文は李範文 (1984：39) も参照.

(30) 漢語「魏」の音写か．李範文 (1997：901, 字典番号 4962) 参照.

(31) 字形は上約三分の一を欠くが 𗅅 「女」か．西田 (1977：85, 文字番号 010-113) 参照.

(32) 「欠く，残」．李範文 (1997：341, 字典番号 1785) 参照.

(33) 下部が欠けるが，𗅈 「また，さらに」か．西田 (1977：245, 文字番号 276-061) 参照.

3] 夜 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] □ [

…文武を悉く具え，世々…(34)

4] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [

…世名を明らかにするとは，すぐれたものではないのか．…

5] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [

…深院は広く(35)すぐれており，計略を具足し，…

6] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [

…中に家を造り，悟った(36)．故に上…

7] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [

…往昔，鐘鼎(37)を宮…

8] [illegible] [illegible] [illegible] □ [

…故に祖母(38)…

9] [illegible] [illegible] [illegible] [

…の方に発生（発起）し…

---

(34) 標準的な字形 [illegible] （李範文 1997：588，字典番号 3139）と若干異なるが「世」と読んだ．

(35) 「広い，博い」．李範文（1997：1062-1063，字典番号 5864）参照．

(36) [illegible] は動詞接頭辞と読んだ．文脈上，完了態表示機能を持つ要素として訳した．

(37) 「鐘」．李範文（1997：36，字典番号 0178）参照．

(38) [illegible] [illegible] の二語で「祖母」．李範文（1997：18，字典番号 0092）参照．

10] 𢧢 [

…の上に隠す（隠れる）[39]…

11] 𢧢 [

…襁褓を負う（背負う）[40]…

12] □ [

…？…

参考文献

荒川慎太郎

1997 「西夏語通韻字典」『言語学研究』第 16 号：1-151

1999 「夏蔵対音資料からみた西夏語の声調」『言語学研究』第 17-18 号：27-44

陳炳応

1983 「天梯山石窟西夏文仏経訳釈」『考古与文物』1983 年第 3 期：45-47

Кычанов, Е. И. (составитель), Т. Нисида (вступительная статья), С. Аракава (подготовитель издания)

1999 *Каталог тангутских буддийских памятников Института Востоковедения Российской Академии Наук*, Университет Киото（露文．邦題：『ロシア科学アカデミー東方学研究所所蔵西夏語仏教文献目録』，編著：E. И. クチャーノフ，序論文：西田龍雄，校閲：荒川慎太郎，京都大学）

李範文（主編・編著含む）

1984 『西夏陵墓出土残碑粋編』，文物出版社，北京

1986 『同音研究』，寧夏人民出版社，銀川

1997 『夏漢字典』，中国社会科学出版社，北京

松澤博

1986 「西夏・仁宗の訳経について——甘粛省天梯山石窟出土西夏経を中心として——」『東洋史苑』第 26・27 号：1-31

1990 「敦煌出土西夏語仏典研究序説——天理図書館所蔵西夏語仏典について（1）——」『東洋史苑』第 36 号：1-98

1994 「敦煌出土西夏語仏典研究序説——天理図書館所蔵西夏語仏典について（2）——」『龍谷史壇』第 103・104 号：144-180

---

(39) 「隠す，隠れる」．李範文（1997：138，字典番号 0703）参照．

(40) 下半分を欠くが，𢧢「負う，背負う」（李範文 1997：537，字典番号 2847）か．

内蒙古文物考古研究所阿拉善盟文物工作站
1987 「内蒙古黒城考古発掘紀要」『文物』1987年第7期：1-23
寧夏回族自治区博物館
1978 「西夏八号陵発掘簡報」『文物』1978年第8期：60-70
寧夏文物考古研究所・許成・杜玉冰編著
1995 『西夏陵』，東方出版社，北京
西田龍雄
1957 「天理図書館所蔵西夏語文書について（Ⅰ）」『ビブリア』第9号：11-17
1958 「天理図書館所蔵西夏語文書について（Ⅱ）」『ビブリア』第11号：13-20
1962 「天理図書館蔵西夏文『無量寿宗要経』について」『ビブリア』第23号：357-366（西田（1997）に再録）
1969 「西夏の仏教について」『南都仏教』第22号：1-19（西田（1997）に再録）
1975 『西夏文華厳経』I，京都大学文学部
1976 『西夏文華厳経』II，京都大学文学部
1977 「西夏語・漢語対照語彙」『西夏文華厳経』III，京都大学文学部：61-254
1980 「西夏語仏典について」樋口隆康（編）『続シルクロードと仏教文化』，東洋哲学研究所：211-248（西田（1997）に再録）
1981 「西夏語韻図『五音切韻』の研究（上）」『京都大学文学部研究紀要』第20号：91-147
1982 「西夏語韻図『五音切韻』の研究（中）」『京都大学文学部研究紀要』第21号：1-100
1983 「西夏語韻図『五音切韻』の研究（下）」『京都大学文学部研究紀要』第22号：1-187
1989 「西夏語」亀井孝・河野六郎・千野栄一（編）『言語学大辞典　第2巻　世界言語編（中）』，三省堂：408-429（「西夏語の構造と系統」と改題，西田（1997）に再録）
1997 『西夏王国の言語と文化』，岩波書店
史金波
1988 『西夏仏教史略』，寧夏人民出版社，銀川
1993 『西夏仏教史略』，商務印書館，台北（史金波（1988）の再版）
史金波・白濱・呉峰雲
1988 『西夏文物』，文物出版社，北京
山口瑞鳳
1998 『チベット語文語文法』，春秋社
中国民族古文字研究会編
1990 『中国民族古文字図録』，中国社会科学出版社，北京

チベット語仏典は『影印北京版西蔵大蔵経』（第21巻）によった．